

ガーナでそろばんプロジェクト 61 号(2017年 3月 7日)

★★ 2月最後の教室の日に起こった嬉しいこと ★★

昨日、三月六日はガーナがイギリスから独立して六十回目の記念日でした。気づけば、この報告書も前号が六十号でした。一年一年の歩みと月に一度の発行であるこの報告書では歩む時間が比喩物になりませんが、これからもそろばん教室での出来事や自分の想いを大切に自分の言葉で伝えていけるよう歩んでいきます。

さて、この報告書で度々「高校受験とともに教室から足が遠のいてしまう子ども」のことを挙げてきました。最近では前号でも挙げたばかりです。受験勉強の忙しさや村に高校が無く寄宿舎に入る為にアフィエ村を出てしまうのです。そろばんの楽しさは「もうこれで良い」といったゴールがない事だと私は思っています。やればやるほど次の目標も出てくる。そうした体験は子ども自身感じ取っていると思っています。そうした中、「高校進学」とともにそろばん教室を去ってしまうことをとても残念に感じています。4年ほど前のデータになりますが、活動しているデバイスアカデミースクールの高校進学率は八十五パーセントあります。これは、村の私立の学校が打ち出す数字としてはとても高いもので学校関係者も誇りにしている数字で私ももちろんうれしく思うのです。その反面、残念で悲しく思うのです。「続けて欲しい」続けられるよう、また子どもたちの目標も持続出来るようにご褒美には高校の参考書を用いることも考えています。実際、デバイストへ高校の参考書をご褒美に出したことも有ります。けれどもどんなに手を尽くしても「高校進学」にはどうすることも出来ず、遠のいていく足。想いと現実の違いに歯がゆさを感じる日々でした。2月最後の教室開室の日も、どうにかこうにか2時間あれば8級練習プリント1セットが終わるパトリックを見ながら、中3である彼にあとどのくらい時間が有れば、マイそろばんを持たせて検定合格のご褒美であるスクールバックを贈ることが

出来るのだろう。けれども九九がまだ少し怪しい彼にどう指導すれば、私の願いは叶うのだろうか……そう思っていた時でした。「トシコ……」そう言いながら教室に入ってくる子どもがいました。クレナムです。アフィエ村から北へ行ったところにあるホという大きな町の高校に進学したクレナムだったので。まさかと思いついて「そろばん教室に来たの?」と聞いてしまいました。答えはYesでした。マイそろばんは、家に鍵がかかっていた為に持って来られなかったけれど、ボールペンを手にしていました。学校がミッドタムに入った為、村に帰って来ていてまた火曜日にはホに帰ると話していました。クレナムが最後に来たのは2016年3月28日でした。クレナムにかつて取り組んでいた3級の練習プリントを渡しました。やっていた練習プリントです。小数の計算を忘れていなかったようで、左の人差し指を動かしながら珠を弾いていました。そのクレナムを見ていて「子どもたちは必ず戻ってくる」そう確信し、うれしく思いました。ミッドタムに期待が持てそうです。

報告 TOSHIKO



協賛

トモエそろばん様